

天才アート KYOTO



天才アートとは、障
碍のある人の多くがもつ
優れた感性と表現力、
そこから湧き出る独

創的なアート作品に対して、特定非営
利活動法人 障害者芸術推進研究機構
(天才アート KYOTO) が独自にネーミ
ングしたものです。当機構は天才ア
ートを推進し、その啓発・普及活動を積
極的に行っています。



発行日 2019年10月15日 (火)

発行者 特定非営利活動法人
障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
京都市東山区大和大路四条下る
4丁目小松町 四条・新道アトリエ
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六

天才アート

検索



『タイトル不詳』知原諒太 Ryota CHIHARA 1999年生 W210×H297mm コピー用紙・サインペン・色鉛筆 2019年

展 覧 会

予 告

四条通地下通路

『作品ポスター展』開催

2018年度に続いて、本年度も12月3日(火)より来年2月23日(日)まで、下京区の四条通地下通路で天才アートKYOTO所属作家の『作品ポスター展』を開催します。この1年間に生まれた新作も交えて50点を展示予定で準備を進めています。

本展示は、「京都市下京区民が主役のまちづくりのサポート事業」の助成金を受けて、阪急電車と京都市歩くまち京都推進室のご協力により実施します。詳細は、11月上旬ごろをめどに当機構のホームページでお知らせします。



昨年度開催の天才アートKYOTOの作品ポスター展

展 覧 会

報 告

2019年7月5日(金)～7日(日)の

3日間、ギャラリー「高瀬川・四季AIR」にて天才アート・ライブ展を開催しました。天才アートの登録作家の皆さんが団扇とはがきに直に描き、それらを展示販売しました。また、6日(土)には、同じく登録作家である下嶋千佳さん(ピアノ)と勝方浩さん(ベース)のジョイント「Chi-Ka-Tsu」によるジャズライブを2回公演しました。そのジャズライブの演奏は大谷大学の倉光延行先生と学生さんのご協力で、ライブ配

天才アート・ライブ展 in 高瀬川・四季AIR 『描・奏・愉』 高瀬川の町家ギャラリーで音楽とアートのセタライブ開催

信しました。YouTube(天才アートライブ展「検索」)でもご覧になれます。

来場された皆さんには、団扇とはがきをご購入いただくだけでなく、作家が描いている様子を見ていただいたり、作家とお話ししたり、ジャズ演奏を聴いていただくなど、作家と共に愉しむ機会を得られたライブ展でした。

セタライブ展は昨年に次いで2回目ですが、「高瀬川・四季AIR」での展示会は、2017年から年に1回開催しており、今



Chi-Ka-Tsuによるジャズライブ

年で3回目となりました。会場提供でご支援くださっているオーナーの前川八洲男様に感謝いたします。



登録作家の皆さんが手描きで制作した団扇



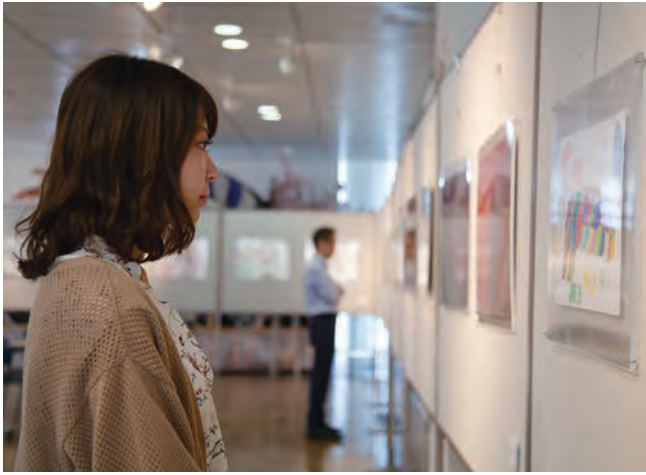
登録作家の皆さんによる手描き団扇の制作

『東山区人権啓発展』を開催

2019年8月6日(火)から23日(金)まで、『東山区人権啓発展』に作品を展示しました。

本展は東山区の主催で、東山区総合庁舎の1階展示ホールを会場に例年開催されています。東山区は新道アトリエの地元でもあり、年々天才アートKYOTOのファンも増えてきています。

本年は「抽象表現の作家たち」をテーマに、足立茉莉・川嶋蒼大・小寺菜月・千原諒太・服部可菜恵の5人の作品50点を展示。来場者の多くの方には初めて見るようなアート作品が多く、新鮮な驚きの感覚で好評を博しました。



トピックス

レポート

文化庁地域文化創生本部の作品入れ替え

2019年7月26日(金)に文化庁地域文化創生本部長官室に展示している作品の入れ替えを行いました。

この展示は、2017年に地域文化創生本部が京都市の東山区に設置された時から行っており、本年度で2回目の展示替えです。今回は、「椿」と服部可菜恵氏(1994年生)の「アンスリウム」「クレマチス」です。今回は「花」をテーマにしましたが、両作家とも伝統的なタッチではなく、独自の「様式化」された作風で描き続けていて、来訪者の目をひきつける作品です。

文化庁のFacebook・9月16日付に動画がアップされています。
<https://www.facebook.com/bunkacho/>



文化庁地域創生本部の三木事務局長(右端)と歓談する大場さん(左端)と服部さん(左から2人目)



自作を前に写真に収まる服部さんと三木事務局長



自作を前に写真に収まる大場さんと三木事務局長

天才アートKYOTO登録作家による作品展示のご紹介

楠川敦士さん

楠川敦士 作品展

『イメージと記号の会話』

2019年8月1日(木)～8月12日(月)

会場: artion art gallery



水玉ミリさん

『A4の世界IX』

『Paradox Paradise-1』

2019年8月24日(土)～9月4日(水)

会場: SUNABA GALLERY



TENSAI ART NOTE

天 オ
ア ア
ノ ト
ー ト

全田 笑弥

全田 笑弥 Wataru ZENDA
1977年生

全田は、いままで自己が投影された人物が渾然一体とした中で頭からある種のエネルギーを発する絵を描いてきました。今回紹介する「YOU WANT TO BE FREE」（あなたは自由になりたい）と描かれた絵画、また「Ultimate control」（究極の管理）と名付けられた2つの作品は、人間の精神そのものがかいかに秩序だっておらず、かつ混沌の中で生きているかに気付かされます。

『あなたは自由になりたい』2017年 W270×H380mm
画用紙・アクリル

『アルティメット コントロール』2017年 W270×H380mm
画用紙・アクリル・ペン

作品下左：『うずまきのグラデーション 151122-3』2015年 W210×H295mm
作品下右：『うずまきのグラデーション 160327-10』2016年 W380×H540mm



足立 茉莉

足立 茉莉 Mari ADACHI 2000年生

足立の作品には「うずまきのグラデーション」のように、さまざまな色彩のペンによる渦巻き模様で構成されています。多重に重なった花丸マークや花火のようにも、あるいは花のようにも見えます。単純にしてシンプルな作風に対して鑑賞者は「これは〜かもしれない、いやこれは〜だ」と自分の解釈で作品を見立て、さまざまな解釈を生み出します。その解釈には、どれも足立のダイナミックな身体性が含まれています。

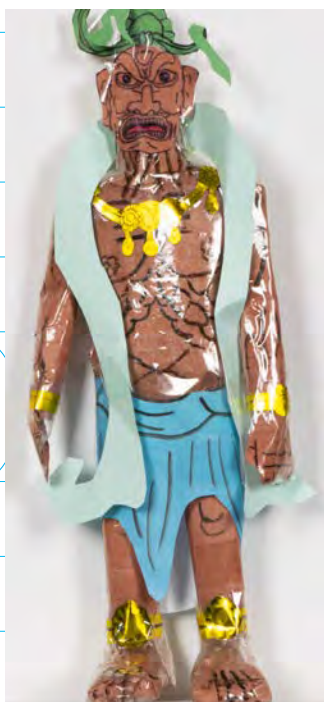
西村紫苑 Shion NISHIMURA 2002年生

西村は、日本の「ウルトラ怪獣」「大魔神」シリーズなど特撮の影響を受けたモチーフと、「十二神将」「八部衆」など仏法を守護する神や「鬼像」などを、色画用紙やセロハンテープ、ペンなどを用いて30cmほどの人形を制作してきました。「ウルトラマン」と「ウルトラ怪獣」の関係は、日本の仏教における「十二神将」と「鬼」の関係に近いと解釈されることもあり、西村が作り出す人形には、日本の仏教文化から特撮映画への歴史的影響が集約されているのです。

西村 紫苑

作品左：「金剛力士像（阿形）」W85×H240×D35mm 2018年ごろ 色画用紙・セロハンテープ・ペン

作品右：「テンペラー星人」W170×H300×D20mm 2018年ごろ 色画用紙・セロハンテープ・ペン



理事長就任のご挨拶 角谷 和好

●広報活動の支援を通して

令和元年の幕開けと時を同じくして、高島寛前理事長の後を受けて理事長を仰せつかりました角谷です。本業はグラフィックデザイナーで、デザイン事務所を主宰しながら、母校の美術大学で講師もしています。

初代理事長の松谷昌順先生、二代目の高島先生のお二人とも大学の恩師であり、その後を引き継ぐというのはあまりにも恐れ多いことですが、その名を汚さぬように精一杯務めさせていただきますと思います。

さて、私が特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構(天才アートKYOTO)に参加させていただくようになったのは、今から4年前の2015年4月です。高島先生からデザイナーという経験を活かし、主に作品展のポスターやチラシ、会報のデザイン編集など、いわゆる広報活動を支援してほしいというご依頼をいただいたのがきっかけでした。仕事の合間を縫い、ボランティアとしてどこまでやれるのか、あまり自信はありませんでしたが、少しでも社



会のお役に立てればという軽い気持ちで続けてきて現在に至ります。年に数回の作品展の広報物作成と会報の発行は、ほとんどが時間的余裕のない中での制作ですので、思わぬミスやトラブルの連続ですが、何とか大きな問題もなく対応できているのは、関係者の皆さまのご協力のおかげと感謝しています。

●障害者芸術との出会い

私が障害者のアート作品と出会ったのは、実は天才アートKYOTOが最初ではなく、今から21年前、1998年にさかのぼります。仕事で滋賀県の某銀行の行内報(新入行員号を含め年5回発行)の企画編集を手がけることになり、表紙を飾る作品の企画を考えていたとき、東本願寺の主催、京都新聞社会福祉事業団が後援する障害者アート作品展の新聞記事を見つけました。直感的に「これだ!」と思いつき、すぐに京都新聞社会福祉事業団に連絡しました。

そこで紹介されたのが、写真家の故井上隆雄先生です。井上先生は、滋賀県立近江学園や大木会一麦寮など障害者施設で制作された作品の撮影をライフワークにされていたのです。早速、アトリエを訪ねて写真をお借りし、銀行にプレゼンテーションすると、見事採用が決定しました。最初の掲載号は1998年4月号。以後12年間、行内報の表紙に障害者アートの作品を採用し、何度か施設にも撮影で足を運びました。その間、写真を介して出合った多くの作品、撮影で実際に見た作品(主に粘土の造

形や織物)、またその作者にもお会いすることで、作品の魅力にどんどん引き込まれていきました。これをきっかけに近江学園の創設者で、障害者福祉の父と呼ばれる糸賀一雄先生を知り、「この子らを世の光に」という考え方に強い衝撃を受けました。

その仕事は、2010年で担当から外れましたが、5年後にまた天才アートKYOTOを通して障害者アートに関わりを持つことになり、縁のようなものを感じます。

●設立10年に向けて

当機構も設立9年を迎え、事業の幅も領域も広がっていく中において、障害者アートに対する社会の意識も徐々にではありますが、変化しつつあるように思います。理想とするのは障害者が制作した作品が、特定のマーケットではなく、現代美術の枠組みの中で広く流通し、自立への足がかりになることですが、まだまだその道程は遠いと言わざるを得ません。

天才アートKYOTOは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に設立10年を迎えることになりましたが、それをひとつのステップと考え、さらなる高みへと進んでいかなくてはなりません。そのためには登録作家さんやご家族の皆さま、そして当機構のスタッフが一丸となることが求められます。あらゆる情報が共有され、コミュニケーションを密にした運営を目指して努力してまいりますので、皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

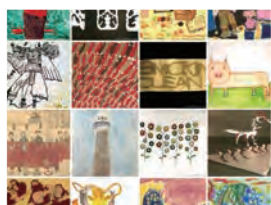
天才アートKYOTO「作品アーカイブ」を公開!!

天才アートKYOTOでは、2011年に活動を開始して以来、登録作家の創造の場として新道アトリエを開設し、制作環境を提供してきました。現在、登録作家は44名にのぼり、収蔵作品は3千点を超えています。

2015年度からは、作品のデジタルアーカイブ保存の取り組みを始めました。同年9月より新道アトリエ内に撮影スタジオを設け、専用のストロボ照明機器も設置して、順次、作品の撮影を進め、現在までに約1300点をアーカイブしています。

この夏より、アーカイブデータの公開に向けて準備を進めてきましたが、11月よりホームページ上で公開し、多用途にデザイン活用を希望する企業や個人の皆さまにデータを提供する予定です。画像をさまざまなメディアや製品などにデザイン活用することで、CSRへの取り組みとして、あるいは企業や製品の価値を高めていただけます。そして、画像データ使用の著作料を提供していただき、作家に還元することで、障害のある人の自立と社会参加につながり、共生社会の実現にも貢献するものです。

詳しくは、天才アートKYOTOのホームページでお知らせします。ぜひご期待ください!!



ご家族さま
より寄稿

彩とアートとの出会い

上田 利江子

●はじめてのお絵描き

「上の子とは何か違う」と最初に感じたのは、彩が1歳前の頃でした。

娘の彩は出生時に障害があることは分かりませんでした。成長過程で長男とは少し違うなあと感じることが、だんだん多くなっていました。

児童相談所で担当者の方から「保育園に通わせてみたらどうですか」とアドバイスをいただき、保育園に通うことになりました。保育園では、先生方がいろいろと考え、工夫していただき、彩の興味をもてることを増やしていただきました。

言葉は、ほとんど出てきませんでしたが、ある日、長男と同じように、紙と色鉛筆を持ち、当時、人気のあった「アンパンマン」をジッと観ながら、手にグッと力を入れ、真っ白な紙に力強く、絵を描き始めました。今、思えば、彩が絵を描き始めたのは、この時だったと記憶しています。

言葉では、自分の気持ちを表現できませんが、アンパンマンが好きだという気持ちを絵で私に教えてくれていると気づき、驚きました。それとともに発達が遅れ、話せないから絵を描くこともできないだろうと思っていた自分を恥ずかしく思いました。

それからは、外出すると、行った場所にある建物や風景を描いてくれ、うれしそうに、私に描いた絵を見せ、気持ちを伝えて



「金午後」に参加していた高校生の頃



プランターに描いた作品

くれるようになりました。私も彩が絵を描いた時は、心に感動があり、それを絵に表現し、描かなかった時は、きつと興味がなかったのだと思えるようになりました。

●できることが増える毎日

小学生になると、慣れない生活でしばらくは落ち着かない日々が続き、心配になりましたが、小学2年生から学区内の小学校に育成学級ができ、先生とマンツーマンでの学校生活が始まると徐々に落ち着きはじまりました。担任の先生も彩の得意な所を伸ばそうと、絵を描くことだけではなく、いろいろなことを取り入れ、彩のできる力を

伸ばしていただきました。彩もできることが増えると、うれしそうに私にできたことを絵で報告してくれ、その度に、彩の成長を感じることができました。

絵を描き始めた頃から、彩には、その時々でマイブームがあり、その度に本やDVDを熱心に見て、動物に浴衣を着せたり、いろんなキャラクターを集合写真のように並べたりと、学校から帰ってくると、机に向かい、時には描きながら、「クック」と笑って、楽しそうに絵を描いていました。

高校生になり、京都市立呉竹総合支援学校での授業の一つの「布加工」では、ミシンでかばんを作ることから教えていただき、できることが増えてきたのをうれしく思いました。そして、「金午後」にもお声がけいただき、彩は楽しく、学校生活を送ることができました。

高校卒業後、作業所に入ると、元呉竹総合支援学校の先生から「手織り」をしてみませんか、声をかけていただきました。彩に織物ができるのか、覚えられるのかと心配でしたが、彩の希望もあり、始めることになりました。先生の指導もあり、彩は楽しそうに時々笑いながら、糸を織りあげていき、出来上がると「ほら、お母さん、見て」とうれしそうに、写真を見せてくれます。

●生活の一部となったアートとの触れ合い

また、天才ARTKYOTOからもお声がけいただき、自宅で描いているキャラクターの絵は封印し、アトリエでは風景や人物、そ

の季節に合わせた絵を描こうと、前もって準備して楽しそうに出かけて行きます。

ここ数年来、彩はカレンダー作成にはまっています、カレンダーの余白に、その月に合わせたイラストや旬の食べ物を好きなキャラクターを入れ書き込み、自身の予定を書き込んでいます。1月はなぜか2023年までできていて、私に見せながら「お母さん、早いなあ」と笑っています。

また、季節に合わせ、自身の部屋のレイアウトも百均などの飾りを工夫し飾りつけを変えています。何をするのも、笑顔でとても楽しそうに、出来上がると「お母さん、見て」と私に見せ、反応を確かめています。

彩にとつて、毎日のアートとのふれあいが生活の一部になっていきます。

好きなことに出会えて本当に良かったと、関わって下さった方に感謝の気持ちです。



最近作の『木村彬枝と上田彩』(左)と『ヒマワリ』(右) 2019年

ボランティア
さんより寄稿

きつかけは1本のうちわから

田中賢

●「障がい者アート」との出会い

今から約20年前、京都文化博物館で開催されていた「アール・ブリュット／生の芸術展」での展示作品を見たのが、いわゆる「障がい者アート」とよばれるものとの出会いでした。「当時から休日にはよく美術館めぐりをして、絵画鑑賞が大好きで…」ということは全くなく、どちらかといえば真逆のタイプ。小学生の頃の図画・工作から高校の美術に至るまで、人並み以上の成績をとったことはありませんでしたし、今でも絵心の無さには自信があります。たまたま知人からもらったチケットがあり、なんとなく行つた展覧会でした。

そんな私ですから、技術的なことだけでなく、その作品の本当の凄さというものは分かりません。

ただ、そこで目にした作品の数々に純粋に心奪われました。

その時の気持ちや感動は上手く表現できませんが、その日以来「障がい者アート」に興味を持つようになりました。その後、展覧会開催などの新聞記事や告知広告などを目にし、都合が合えば足を運び、作品を鑑賞するということが増えました。

ただ、当時は今のインターネットのような情報インフラが整っていたわけではないので、その情報量は限られたものでしたし、興味を持ったとはいえ、そこまで積極的

情報を拾い集めていたという訳ではありませんでした。

●ボランティア活動への応募

それから月日は経ち、2017年夏。街で配られていた1本のうちわを手にしました。そこには印象的な赤い魚が描かれていました。その裏には協賛企業と天才アートKYOTOのロゴ。20年前なら間違いない、ただ街でもらった1本のうちわで終わっていたと思います。直ぐにインターネットで調べ、地元京都にそのような活動をされている団体があるということを知りました。

本当に便利な世の中です。

WEBサイトを読み進めて行く中で「ボランティア募集」という文字が目にとまりました。

「ボランティア活動か…」



この時、応募するかどうかしばらくの間考えました。そして自分の中でいろいろ整理をし、ボランティア活動の参加にあたりいくつかの決めごとを作りました。

参加するにしても、いい歳をしたオッサンがいい加減なこととしては失礼極まりありません。自分のいい加減なところを分かっているだけになおさらでした。

面接当日は、先日退任された当時の高島理事長がしてくださいました。まん丸の笑顔で丁寧ないろいろな話を説明していただいたことも今ではいい思い出です。

●活動を通じて感じる事

その面接から天才アートKYOTOでのボランティア活動も、この10月で3年目を迎えます。

これまで続けてこられたのも、ひとえに運営に携わる役員の方々、他のボランティアスタッフの方々に温かく迎え入れてもらえてのものだと感謝しております。

正直、3年経った今もたいしたお役には立てていませんが、できる限り休日アトリエ活動のある土日は参加させていただいています。

アトリエ活動に参加させていただくようになり作品の見方も少し変わりました。これまででは展示されている完成された作品が全てでしたが、どのような作家さんがどのような環境で作品づくりに取り組んでおられるのか。そういったことを実際の創作活動をされている姿を近くで見ることによって感じることができました。



これからも天才アートKYOTOが作家さんはもちろん、それを支えるご家族やまわりの方々にとって制作活動の場、もしくはそれ以上の意義のある場になることを願つてやみません。またかつての自分がそうだったように、まだ「障がい者アート」を知らない人たちの知るきっかけの一つが「天才アートKYOTO」であればいいなと思います。

まだまだ勉強不足でNPO法人活動について、障がい者アートについて分かっていないことだらけですが、これからも引き続きボランティア活動を通してより知識を深め、経験を重ねることによってこれまでに皆さんのお役に立てるよう取り組んでいきたいと思っています。

今後とも、何卒よろしくお願い致します。

SCREEN HDさまの CSRの取組で当機構を紹介

株式会社SCREENホールディングさまでは、このたび京都本社ロビーにCSR（企業の社会的責任）の取り組みを紹介するエリアを新しく設置されました。そこでは、天才アートKYOTO登録作家の作品がデジタルサイネージの画面で流れ、訪問者の皆さんにご覧いただく機会を提供されています。

同社には、数年前から当機構の複製画レンタルや原画レンタルを採用していただき、同ロビーには土屋彰男さんの作品（原画）が展示されていることもあり、作品とデジタルサイネージによって、来訪者に天才アートKYOTOを知っていただく良いきっかけになっています。



CSRの取り組みを紹介するデジタルサイネージ

会員・寄付を募集しています

天才アートKYOTOは、当機構の趣旨や活動に賛同していただける会員を募集しています。会員は「正会員・賛助会員・名誉会員」の3種類。また、寄付金や助成金、「障害者アートミュージアムKYOTO設立支援基金」などのお申し込みも随時受け付けています。詳しくはホームページに掲載していますので、ご協力いただきますよう、よろしくお願ひ致します。

<http://tensai-art.kyoto>

ボランティアを募集中！

運営のお手伝いをしていただけるボランティアの方を募集しています。制作のサポートや作品の記録保存・作品展の企画運営・商品化・広報活動・その他の中から、得意な分野での活動をお願い致します。

広告主募集中！

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。ご協力を、ぜひともよろしくお願い致します。

1枠（55×22mm）…1万円（4回掲載）
●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art.kyoto まで

〈編集後記〉

アジア初開催のラグビーワールドカップ2019日本大会が大きな盛り上がりを見せています。本誌が発行される頃は、プール戦が終わり、決勝トーナメントの直前。どのチームが準々決勝に進めるのでしょうか。そして、来年にはいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

これらをきっかけに海外から多くのお客さまが日本を訪れ、スポーツ観戦だけでなく、日本の文化にも触れてもらえる機会が増えることとなります。当然、京都にもさまざまな国と地域から多くのお客さまが訪れることでしょう。折角の機会ですから、世界のお客さまに、ぜひとも天才アートKYOTOを含めた日本の障害者アート作品を観ていただける場が設けられないかと漠然と考えてしまっています。

グローバル化に後押しされ、狭い日本に閉じこもらずに、せめて作品だけでも世界に向けて発信したいものです。いよいよ始動するアーカイブ事業が、その口火となることを願って止みません。

【表紙の作品について】

知原諒太の作品は前号でも紹介しましたが、彼は鮮やかに色面構成された絵画作品の他に、裏紙に丁寧にレタリングしたかのように描かれた数字のドローイングシリーズがあります。今まではどれも抽象的な作品でしたが、ここ数週間で急に、過去に登場してきたモチーフ（女の子と数字と色彩）が融合されたかのようなシリーズの制作が始まりました。天才アートKYOTOの所属作家は、みんな自分のスタイルを持って作り続けていますが、日々制作することです突然大きな飛躍をすることがあります。



『タイトル不詳』知原諒太 Ryota CHIHARA 1999年生 W210×H297mm コピー用紙・サインペン・色鉛筆 2019年

広告協賛企業（順不同）

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修

**(株)共立ホーム
エンジニアリング**

06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake

Yoshimura
Yoshimura Construction co., Ltd.

吉村建設工業(株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

発展、ともに前へ…
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院